

B-30 ポリプロピレンメリヤス地の汚染性・洗浄性

お茶大家政 ○稲生 宣子
林 雅子
矢部 章彦

1. ポリプロピレン（以下P.P.と略す）の繊維製品の肌着としての用途に着目して、そのメリヤス地の汚染性・洗浄性につき検討した。

2. タテメリヤス編みのP.P.試布を、タテ5cm、ヨコ10cmの単位に裁断して試料とした。CCl₄中にカーボンブラック・牛脂・流動パラフィンを分散させた浴で、上記のメリヤス地の汚染性をしらべ、洗浄性は一定の明度に汚染した上記汚染メリヤス地を牛脂脂肪酸石ケン、

Na-ABS, SLS, および非イオン系（ノニルフェノールエーテル型）の4種の界面活性剤で0.1, 0.3%の溶液濃度でラウンダーオメーターを用いてしらべた。比較繊維として、木綿、綿・P.P.混紡、ボンネル・綿混紡、ポリエステル、ナイロンの各メリヤス地を用い、同様の実験を行なった。

3. P.P.およびポリエステルのごとき疎水性合成繊維は、他の比較繊維に比べてCCl₄浴からはきわめて汚染されにくいことが認められた。また、これらの繊維は他繊維に比して洗浄性は非常に悪く、特に水による場合と

Na-ABS, SLSによる洗浄効率が負に出ること、さらに非イオン系活性剤のみが卓越した洗浄効果があることが注目される。脂肪酸セッケンによる洗浄効果も他のアニオン系合成洗剤とは全く異なり良好であった。

これらの洗剤のビルダー効果は、Na-ABSはすぐれているが、非イオン系活性剤では小さい。